

原則 / 早めの避難

逃げ遅れたら / その場そのときで命を守る行動を

雨や予兆現象に注意し、早めの避難

土砂災害は、避難情報を発令することが非常に難しい現象です。避難情報がなくても自主的に避難するきっかけをつかみましょう。

頑丈な建物や 2階以上の斜面から離れた場所へ

どこへ? 例えば・・・
 ◎土砂災害に対応した予定避難所
 ◎親戚、友人宅など、市内に限らずより安全な場所

どこへ? 例えば・・・
 ◎高くて頑丈な建物
 ◎自宅の高いところで斜面から離れた部屋
 ◎予定避難所に限らず、近くの安全なところ



！雨に注意

土砂災害発生の最も大きな原因は雨です。一般的な目安として、
連続雨量で 100mm 以上の雨 になったら要注意です。
弱い雨でも長時間降り続くと、土砂災害の危険性が高まる

◎降水量はカップやバケツに溜まった水の高さで簡単に知ることができます
 1cm溜まったら、10mm相当の雨量です。
 降り始めから10cm溜まる→【連続雨量で100mm】
※計量カップなどの円柱状（筒状）のカップが雨量計測に適しています。

注意

避難するときには次のことに気をつけましょう。

- ①増水した水路や川に近づいたり横断しての避難は危険です。
- ②斜面から離れた道を選びましょう。
- ③土石流の流れる方向（谷筋）から直角方向に逃げましょう。
- ④周囲の危険を感じたら、近くの高くて頑丈な建物に逃げ込みましょう。

地域の特性や避難先を、ハザードマップ（P.31～P.38）で事前に確認しましょう

注意

土砂災害の前には、予兆現象が発生することがあります。予兆現象を発見したら、周囲で共有して直ちに避難を始めましょう。
予兆現象は P.7 で確認しましょう

！気象情報に注意

大雨等により土砂災害の危険性が高まったときに、気象庁から発表されます。

- 雨が強くなると → **大雨注意報** 災害が発生するおそれがあるときに発表されます。
- 大雨が降り続くと → **大雨警報（土砂災害）** 重大な災害が起こるおそれのあるときに発表されます。
- 大雨が一層激しくなると → **土砂災害警戒情報** 地域の雨量などを考慮して、さらに土砂災害発生の危険性が高まったときに発表されます。
- さらに激しい大雨が続くと → **非常事態** さらに激しい大雨が続くと **大雨特別警報（土砂災害）** 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっているときに発表されます。

気象情報の入手方法は P.41～P.42 で確認しましょう

気象庁ホームページの「土砂災害警戒判定メッシュ情報」で地域ごとの危険度が確認できます。

土砂災害の種類と前ぶれ (予兆現象)

がけ崩れ

地面にしみ込んだ水が斜面をゆるめ、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることを「がけ崩れ（急傾斜地崩壊）」といいます。

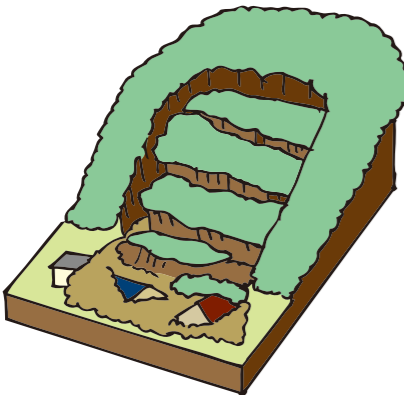


！ がけ崩れの危険 が迫っているかもしれません

- がけに割れ目が見える
- がけから水が湧き出ている
- がけから小石がぱらぱら落ちてくる

地すべり

地下水などの影響により、地面が広い範囲にわたってゆっくりとすべり落ちるのが「地すべり」です。

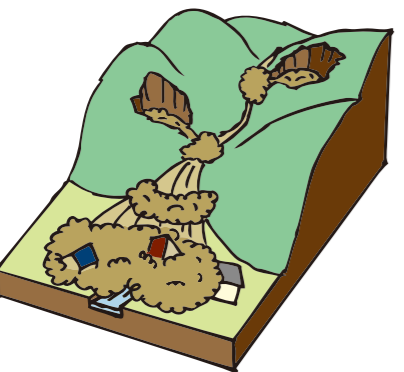


！ 地すべりの危険 が迫っているかもしれません

- 地面にひび割れができる
- 斜面から水が噴き出す
- 沢や井戸の水が濁る

土石流

山腹や川底の石や土砂が、長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されるものを「土石流」といいます。



！ 土石流の危険 が迫っているかもしれません

- 山鳴りがする
- 急に川の流が濁り、流木が混ざっている
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる

このほかにも・・・

！ こんなときは注意しましょう。

- 地鳴り、木の根のちぎれる音、岩の割れる音などがする
- ものの腐ったようなにおい（腐葉土、肥やしのにおい）がする
- 小動物が異常行動（騒ぐなど）をとる

◎自主避難のルールを決めておこう

全ての予兆現象をひとりで確認するのは困難です。異変を感じたら周囲で情報を共有し、みんなで逃げられるよう、ルールを決めておきましょう。また、地域での避難訓練等に積極的に参加しましょう。



土砂災害警戒区域とは？

土砂災害防止法に基づき、土砂災害が発生した場合に、生命又は身体に危害が生じるおそれのある区域として、福岡県により土砂災害警戒区域が指定されました。土砂災害警戒区域は、危険度に応じて次の2つに分けられています。

土砂災害警戒区域

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域です。

土砂災害特別警戒区域

土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域です。

特定の開発行為に対する許可制や建築物の構造規制等が行われます。

※土砂災害警戒区域は福岡県が土砂災害危険箇所（区域）を再調査後、精査して公表しているものです。
 ※不動産取引等で正確な土砂災害警戒区域が必要な場合は、福岡県砂防課のホームページや市の防災関係窓口で確認してください。
 ※土砂災害特別警戒区域から住宅を移転する場合、「北九州市がけ地近接等危険住宅移転事業」により補助金が利用できます。

自宅周辺、避難経路や避難先周辺の危険箇所をハザードマップ (P.31 ~ P.38) で確認しておきましょう

これまでに多くの土砂災害が発生しています

昭和 28 年の北九州大水害

昭和28年6月、旧門司市に降った豪雨は、25日からの4日間の連続雨量で600ミリを超え、旧北九州5市（現在の北九州市）全体で、183名の死者・行方不明者を出す記録的な豪雨となりました。

この豪雨により、旧門司市内で600箇所以上、旧北九州5市全体で、1,000箇所以上に及ぶ土砂災害が発生しました。



昭和 28 年 6 月 門司区 (毎日新聞社撮影)

過去に発生した主な土砂災害

発生年月	発生要因	土砂災害発生件数
昭和 28 年 6 月	大雨	1083 件
昭和 47 年 7 月	大雨	603 件
昭和 53 年 9 月	台風	221 件
昭和 56 年 7 月	大雨	402 件
昭和 60 年 6 月	大雨	283 件
平成 3 年 9 月	台風	2 件
平成 11 年 6 月	大雨	131 件
平成 11 年 9 月	台風	5 件
平成 21 年 7 月	大雨	106 件
平成 22 年 7 月	大雨	130 件



平成 22 年 7 月 門司区